

# すばらしきみえ。

FOR NICE COMMUNICATION

2021.2  
220号

■特集／三重の誇り。地域に尽くした先人たち  
●いま、グループネット／あつまろらい ●みえを歩こう／松阪市 六軒町～市場庄村～久米町



門野 桂之進







# 前川定五郎（1832～1917）

「人の喜びはわが喜び」を貫き、橋づくりに生涯を捧げた

【鈴鹿市牧田地区（平田・岡田・弓削・算所・甲斐・大池・阿古曾）】



「前川定五郎資料室」内で再現された渡し船の様子

の橋には、人々が喜ぶ姿を見て、自分のことのように喜んだ、前川定五郎の物語が秘められているのです。

物語を知るために「前川定五郎資料室」を訪ねると、「前川定五郎翁顕彰事業委員会」委員長の井上敏雄さんと副委員長の薮田雅也さんが温かく出迎えてくれました。同委員会は「牧田地区地域づくり協議会」メンバーによつて、平成26（2014）年に設立され、定五郎の功績をアニメで紹介するDVD「定五郎物語」制作や、小学生を対象にした作文コンクール、純米吟醸「定五郎物語」の米づくりなどを実行つてきました。



DVD「定五郎物語」

この日も同DVDを視聴します。すると、決して裕福ではない定五郎が、鈴鹿川の往来に困つてゐる人々のために、何度も困難に立ち向かつた経緯がわかりました。まず、私財を投じて渡し船用の小舟を購入。その舟を甥と2人だけで血がにじむ思いをして運んだにも関わらず、乗船料はもらいませんでした。次に、橋を架けるために必死で寄付金を募ります。明治29（1896）年、最初に架けた板橋が、わずか1か月で大雨に流された際には、寄付金に加えて自分の田畠を売つて2度目に着手。翌年、長さ122メートルあまりの橋が完成します。しかし、定五郎は満足しませんでした。さらに多くの人々が安心して渡れるようにと、大規模な橋づくりに奔走するのです。長さ245メートルの立派な橋が完成したのは、同41（1908）年のことです。

橋づくりに生涯を捧げた定五郎の物語を視聴し終わると、ほのぼのとしたタッチの絵柄と、地元住民が務める声優が完成したのは、同41（1908）年のことです。

「牧田地区地域づくり協議会」会長の中川悟さん。「住んで良かったまちづくり」に向けて活動する同会では、定五郎の功績を紹介した写真パネルを活用した移動展示も行つています。この日は、竣工したばかりの牧田公民館で、「前川定五郎翁写真パネル・ぬり絵展」を開催。壁一面に展示されたぬり絵には、定五郎翁の穏やかでカラフルな笑顔が並んでいました。

また同会では、次代を担う子どもたちに、定五郎の偉業を伝える授業も実施。授業後の感想を綴つた作文集を見せて

もううと、「何事もあきらめず最後までやりぬくことやひとのために力を出すことができるような人に、成長していくことです」「少しでもたくさん良いことをして、みんなが笑顔で『ありがとう!』と言つてくれるよう、がんばりたいです」などの言葉があふれていました。定五郎の想いは、子どもたちに着実に届いているのです。

## お問い合わせ

「前川定五郎資料室」（牧田小学校内）  
(土・日・祝日公開。見学日の3日前までの平日に要予約)

TEL 059-382-9031  
鈴鹿市文化スポーツ部 文化財課



現在の定五郎橋



明治41（1908）年に完成した橋と、定五郎※



「前川定五郎翁写真パネル・ぬり絵展」



定五郎橋近くの堤防沿いに建つ  
「定五郎翁彰徳碑」



# 時代に先行する経済センスと福祉の精神

## 原田一郎（1849～1930）

【松阪市殿町】



【原田一郎旧宅】

年を社会福祉に捧げた原田一郎の旧宅があります。案内をお願いしたのは、「旧長谷川治郎兵衛家」「旧小津清左衛門家」と、この旧宅の館長を務める、NPO法人「松阪歴史文化舎」の松本吉弘さん。豪商のまちとして知られる松阪ですが、城下町であり、武家の文化も息づいています」と、松阪の魅力を多面的に語られます。

原田一郎は、嘉永2（1849）年、この家に生まれました。父の清一郎は紀州和歌山藩の松坂奉行所に勤める同心。武家らしく質実剛健を旨とし、幼少期から「天下の富は私すべきではない」と諭されて育つたそうです。藩の松坂学問所で学び、数え年17歳（以下年齢はすべて数え年）で藩に奉職しますが、時は幕末の動乱期。20歳のとき明治維新を迎

え、勤王家・世古延世に隨行して京都へ向かうなどしています。廃藩置県の実施された明治4（1871）年、一郎は東京に出て英語や洋学を学びます。

27歳で大蔵省に入った一郎は、31歳のとき、横濱第七十四国立銀行の頭取に就

任します。異例の大抜擢といえるでしょう。続けて東京貯蓄銀行頭取なども務め、銀行家としてその力量を發揮しますが、やがて体調を崩して銀行を辞し、帰郷します。東京での入院生活を含め、療養には十数年を要しました。この頃の一郎は、中央財界の要職を断り、歌人・佐々木弘綱に師事して和歌に親しんだそうです。

明治33（1900）年から、一郎は鴻池銀行（後の三和銀行）に入り、政治家・井上馨の要請により、鴻池家の財政を立て直すための改革に辣腕を振ります。鴻池家再建だけでなく、韓国銀行設立委員などを歴任し、桂内閣に公債償還基金制度を献策して容れられるなど、経済界で重みを増してゆく一郎でしたが、その最中、明治37（1904）年には父を、翌

年に母を、更にその翌年には妻の節枝を亡くします。子もなく孤独となつた二郎は、その後も久原財閥の副監督など要職を重ねながら、戦争や天災で困窮する人々に何度も多額の寄付をしています。

64歳で再婚した妻の栄子とも5年後には永別し、この年、一郎は鴻池家の監督を大隈重信に譲り、翌年には全てを辞して、社会福祉の財團創設に向けて動きはじめます。大正9（1920）年、財産1020万円（現在の約150億円相当）を全て寄付し、これを基金として「原田積善会」を設立しました。時の首相・原敬は一郎の思いに感じ、申請から10

日余りという異例の速さで許可を発したということです。

子どもや有意の若者に学問の機会を与える、社会のセーフティーネットをつくるため、日本学士院への寄付、病院や障害者施設の建設、学校給食の実施など、その活動は多岐にわたります。約10年間、一郎はこの会の運営に当たり、昭和5（1930）年、82歳で永眠しました。

一郎は生前、資金を運用してその利益を福祉に用いるための試算「長期複利補給人員積算書」をつくりました。「原田積善会」はこの精神に添つて資金運用がなされ、今も公益財團法人として東京都

世田谷区に本部を置き、幅広い活動が続けられています。

原田一郎旧宅は、一郎が生まれた頃に建てられた武家屋敷で、丸窓のある二階部分は一郎が銀行頭取を辞して帰郷した際に、書斎として増築したもの。平成21（2009）年に「原田積善会」から松阪市に寄贈され、有形文化財に指定、復元整備を行いました。現在は、「松阪歴史文化舎」により管理・運営され、一般公開されています。

お問い合わせ

NPO法人「松阪歴史文化舎」

TEL 0598-21-8600



昭和10（1935）年に撮影された原田邸の門



2階の書斎から中庭を臨む



玄関横の居間と客間



門から庭へと続く飛石を配した露路（ろじ）







熊野市と御浜町を流れる志原川は、長さ7キロ余りの小さな川です。河口近くには葦原が広がり、産田川と合流して七里御浜に注いでいます。紀南地方ではバードウォッチングに最適な場所とされ、豊かな自然に恵まれていますが、「ゴミ」に悩まされた時期もあったようです。志原川の環境を考える団体「あつまろらい」が、環境改善に取り組んでいます。

## あつまろらい（志原川の環境を考える団体）



川舟で葦原の中を進む

## お問い合わせ

「あつまろらい」  
(志原川の環境を考える団体)  
御浜町志原1995-4  
TEL 05979-2-1957  
(代表 清水 鎮一さん)

七里御浜沿いの国道42号から望める志原川。河口付近は熊野古道伊勢路・浜街道の一部で、この道に峠越えはあります。が、川を渡る際に高波にさらわれた人もいて、志原川尻の巡礼供養碑が往時の困難を物語っています。現在は橋が架かり、高波などの被害を防ぐ橋門が整備されていますが、自然環境は大きく変わりました。流域の自然を軸に、河川改修工事が共存する形を呼びかけて活動しているのが「あつまろらい」です。実際に川舟下りを体験しながら、主力メンバーとして活動する清水 鎮一さん、湊秀司さん、丸山俊明さんにお話を伺いました。

—志原川下流は両岸をヨシが茂り、秋の景色は風流ですね。

清水：使用する川舟は昔、この周辺で農家が米などを運ぶのに使っていたものを再現したものです。魯ではなく竹竿一本

で舟を操ります。志原川は流れが緩やかで水深が浅いため、水面を竿で突いて進むんです。川舟下りの体験では、お客様にも操縦してもらっていますよ。この規模で葦原が残っているのは、紀南地域でもここぐらいのようです。過去25年間で約170種の野鳥が観測され、コウノトリも飛んでいましたが、環境は年々変化し、減ってきました。川縁に群生するハマナツメの木は御浜町の天然記念物に指定されています。

—志原川の豊かさを感じます。幹線道路からは見えないところを流れているのでわかりませんでした。

丸山：川の周囲に湿地と農耕地が広がっていて、河口付近で産田川と合流し、大前池に出来ます。50年ほど前まではシジミ貝がたくさん採れ、魚類、貝類、藻類が豊富で、ハゼやカワエビなども生息していましたが、今ではほとんど見られなくなっています。シジミ貝を復活させることが、活動の目的の一つで、環境改善と調査を行っています。

清水：人々の生活が成り立つ上で、魚や水辺の鳥、昆虫や小動物なども住みやすく共存できる美しいふるさとの風景を守っていきたいと、平成3(1991)年に計画して欲しいのです。

「あつまろらい」を発足しました。豊かな環境にしていこうと、翌年から志原川河口のゴミ拾いを始めました。畳が捨てられていました。テレビが流れてきたこともあります。春と秋に行っています。このよさを知つてもらおうと、川舟下りのツアーを企画し、地元中学生たちにも楽しんでもらいました。組み立て式の「川原屋」という建物で、「川の健康とは」の講座などをを行い、水辺では胡弓やバイオリンのコンサートも行つきました。その中で、従来ある川の流れを活かして治水と環境を両立させる「近自然河川工法」を学びま

した。気候や地理的条件の中で、大気、水、土壤の働きと生態系の関係を本来の自然に近づけるという概念です。

—いろいろな河川整備計画に要望書を提出されているのですね。

丸山：志原川河口は、熊野灘の高波で砂利が動かされ、河口閉塞が起きてしまいました。「港を切るのが大変だった」とよく聞かされました。水が流れにくい状況で、大雨の度に流域が浸水したり、田んぼでは高波による塩害が起こっていました。そういうことも踏まえ、河口対策には河水の深みや浅瀬、流れ方などを活用して計画して欲しいのです。

—川舟からの目線は、普段と違った景色に出会えます。また工フジンなどの音がなく、静かな自然のままを体感できます。水辺から環境について考え、豊かな志原川の流れを次世代に受け継ぎうと活動しています。

インタビュー…中村元美



竹竿一本で舟を操る体験



シジミ貝の調査を行っている



「川原屋」でのコンサート※



清掃活動のツアーを年2回※



左から湊秀司さん、丸山俊明さん、代表の清水鎮一さん

久米町 六軒町 市場庄町

四日市市の「日永の追分」で東海道と分歧し、津市・松阪市などを経て伊勢神宮へと向かう道筋は、伊勢街道と称されます。この街道沿いに続く松阪市市場庄町周辺の家並みには、妻入りの屋根や格子戸のある家が見られ、情緒が漂います。

今から20年前、格子戸のある家並みを未来へと受け継ぐために設立されたのが、「格子戸の会」です。タウンウォッキングやワークショップなどで地域の魅力を再発見する中、各家の屋号を杉板に書いて掲げるなど、さまざまな活動を行ってきました。

今回は、地域の「宝物」、格子戸のある町をゆっくりと散策します。取材・文：中村真由美

ります。「では、架け替えられたばかりの三渡橋をめざしましよう」との案内で、駅舎を後にします。住宅地をしばらく歩いたところで、道は突き当たりになり、目の前を少し細い道が南北に続きます。この道が伊勢街道で、街道を南へ進む

## 三渡橋を渡つて六軒の追分へ

りです。



### 三渡橋



常夜灯



また伊勢参宮講の常宿の一軒である  
旧磯部屋には、講看板が残されていて  
隨時、見学が可能となっています。

目の前を少し細い道が南北に続きます。この道が伊勢街道で街道を南へと進むと見えてくるのが、三渡橋です。お話をり、令和元年に渡り初めが行われたばかりです。

「名が付いたといわれています」と名前の  
渡る場所が3か所あつたことから、その  
由来を教わりながら橋を渡り、六軒町へ  
と入ります。すると見上げるほど大き  
な常夜灯と道標に出迎えられました。  
街道を挟んで東側に立つ常夜灯は、文政  
元(1818)年に建立されたもの。火  
袋などは当時のものではありませんが、  
存在感十分です。一方、西側に立つ道標  
には「いがごへ追分 六けん茶や」右  
にせみち 六軒茶屋などと大きく刻まれ  
ているのがわかります。



## 道標



行程図 所要時間／約2時間 ※所要時間は、およその目安です。

## START





「市場庄公会堂」



案内板



久米町の伊勢街道沿いに立ち並ぶ行者堂や山ノ神など



18 舟木家長屋門

古町内にもあり、いずれも大切に保存されています。

忘井に立ち寄つた後は、近くの神楽寺で小休憩するのもよいでしょう。

同寺には見ごたえのある山門や藤棚があります。

再び、街道へと戻り、大正7(1918)年建立の「市場庄公会堂(旧米ノ庄村役場)」を眺めてから進むと、やがて「格子戸」が見ええてきました。このあたりが



神楽寺の山門

### 格式の高さを示す長屋門

古町内にもあり、いずれも大切に保存されています。

忘井に立ち寄つた後は、近くの神楽寺で小休憩するのもよいでしょう。

同寺には見ごたえのある山門や藤棚があります。

再び、街道へと戻り、大正7(1918)年建立の「市場庄公会堂(旧米ノ庄村役場)」を眺めてから進むと、やがて「格子戸」が見ええてきました。このあたりが

市場庄町の南端で、ここから先は久米町に入ります。

まご壁の長屋門を見ることができました。舟木家の長屋門を見学し、その少し南にたたずむ庚申堂や山ノ神2基に手を合わせれば、終点の近鉄「松ヶ崎」駅までは5、6分程度の距離。格子戸のある町めぐりは、これで終了です。

なお、同駅も起点のJR「六軒」駅も本数が少ないため、事前に時刻表を確認した方がよいでしょう。起点を近鉄「伊勢中原」駅にするなど、都合に合わせたルートを選択してもよいでしょう。

カーブに沿つて歩いた後に見えてくるのが、南北朝時代から続く名家、舟木家の屋敷です。同家では、重厚感のあるな

### 市場庄町で格子戸めぐり

旧磯部屋で、往時の賑わいを彷彿させ

る講看板を見学した後は、再び伊勢街道を進みます。すると、市場庄町へと入つたあたりから、妻入りの屋根と格子戸の

家が目を引くようになりました。これが同町の大きな特徴で、三角形の妻入り屋根が重なつて見える光景は独特的の風情があります。

「格子戸の棟を見えてください。角が丸くなっているでしょ?」の言葉に促されて近付いてみると、確かに角が取れて丸みがあります。これは、お盆と暮れに



市場庄町の家並み



屋号「的屋跡」を記した木札

各家の格子の並び方の違いや、屋根の上にたたずむ、「鍾馗さん(疫病よけの神様)」を見学していると、玄関口に「的屋跡」「大角」などと屋号を記した札が掲げられています。この貴重な慣習が、今後も続いてほしいとの想いが伝わりました。

各家の格子の並び方の違いや、屋根の上にたたずむ、「鍾馗さん(疫病よけの神様)」を見学していると、玄関口に「的屋跡」「大角」などと屋号を記した札が掲げられています。この貴重な慣習が、今後も続いてほしいとの想いが伝わりました。

各家の格子の並び方の違いや、屋根の上にたたずむ、「鍾馗さん(疫病よけの神様)」を見学していると、玄関口に「的屋跡」「大角」などと屋号を記した札が掲げられています。この貴重な慣習が、今後も続いてほしいとの想いが伝わりました。



歌碑



忘井

### 斎王ゆかりの忘井

掃除した結果なのだと教わります。暑い日も寒い日も、せっせと一本ずつ桟を磨く人々の姿が目に浮かぶようです。優しく見つめる中村さんからは、

この貴重な慣習が、今後も続いてほしいとの想いが伝わりました。

歩いていると、四つ角に立つ、小さな道標に気付きました。「忘井之道」と刻まれています。忘井とは、古くからこの地にあった井戸のことで、天永元(1110)年に行われた姫子内親王の斎王群行に同行した官女甲斐が、このあたりを

通った際に、望郷の念を込めて「別れゆく都の方の恋しきにいざ結びみむ忘井の水」と詠んだ話が伝わります。

傍らには歌碑もたたずんでいます。なお、忘井の伝承地は嬉野宮

# 三重の シンボル

玉城町

三重県内の市町などが、それぞれの特徴を象徴する存在として選定している木・花を紹介します。



町の木  
マキ



町の花  
サクラ

お問い合わせ

玉城町役場 総務政策課 TEL 0596-58-8200

\*市・町名の50音順に紹介しています。

\*シンボルを選定していない、もしくは鳥や魚などを選定している市町も一部あります。

表紙写真 「門野幾之進記念館」(鳥羽市鳥羽)

百五銀行のホームページで、「すばらしき“みえ”」のバックナンバーをご覧いただけます。

<https://www.hyakugo.co.jp/mie/>